

平成 25 年度
公益財団法人黒潮生物研究所
事業報告

目次

I 事業の概要	1
1. 調査研究	1
(1) 黒潮流域における生物相の把握および生物多様性情報、 分類情報の収集・整理	1
(2) 生態研究	3
(3) その他（保全対策や保全手法等に関する研究ほか）	4
<調査研究関連の請負業務一覧>	6
(4) 研究助成事業	6
(5) 利用者の受け入れ	7
2. 保全対策	8
(1) 宿毛湾環境保全連絡協議会への協力事業 （水産多面的機能発揮対策事業への参加）	8
(2) 「すくも湾藻場育成事業」協議会への参加	8
(3) 竜串自然再生協議会への協力事業	8
(4) 竹ヶ島海中公園自然再生協議会への協力事業	8
(5) 足摺宇和海保全連絡協議会の運営	9
(6) モニタリングサイト 1000 事業への参加	9
(7) 四国沿岸で行われるサンゴ食害生物駆除活動への協力	10
(8) 閉鎖性海域における赤土等の対策手法検討委員会への参加	10
(9) その他の自然環境の保全に資する取り組み	10
<保全対策関連の請負業務一覧（契約日順）>	11
3. 普及啓発	13
(1) 黒潮生物研究所等での公開展示（自然史資料の公開展示）	13
(2) 講演会・談話会・野外観察会等の企画開催および開催協力・参加	13
(3) 環境教育・社会教育の推進（研修会の企画、受け入れ、講師派遣）	16
(4) 広報・出版	18
4. 業績のまとめと一覧	21
5. 寄附等	32

Ⅱ. 庶務の概要	33
1. 公益財団法人への移行	33
2. 役員等に関する事項（平成 25 年度末現在）	33
3. 職員等に関する事項	33
4. 会議に関する事項	33
(1) 平成 25 年度理事会	33
(2) 平成 25 年度評議員会	35
(3) 評議員選定委員会	36
5. その他の庶務事項	36
(1) 登記等	36
(2) 諸規則の一部改正等	36

I 事業の概要

1. 調査研究

(1) 黒潮流域における生物相の把握および生物多様性情報、分類情報の収集・整理

○四国周辺の海棲動植物相調査

四国およびその周辺地域の種多様性、生物群集の構造や特徴、また環境特性などを理解し、長期的な環境変動把握のための基礎資料を得るため、以下の生物相調査等を実施した。

・四国周辺海域の造礁サンゴ相に関する研究

四国太平洋岸における造礁サンゴ相調査を引き続き行った。これまで四国では高知県の大月町と土佐清水市竜串のみで発見されていた *Acropora samoensis* を徳島県竹ヶ島で新たに記録し、本種の北限が更新された。本研究により四国沿岸から記録された造礁サンゴ類は 16 科 50 属 139 種となった。

・四国沿岸の棘皮動物相に関する研究

過去にまとまった報告のなかった四国沿岸の棘皮動物相を明らかにするため、引き続き潮間帯調査、潜水採集調査、刺し網漁や宝石珊瑚漁の混獲物調査などを行い、棘皮動物の分布情報や標本の収集・整理を進めた。平成 25 年度の調査では、ヒトデ綱 4 種、クモヒトデ綱 1 種、ウニ綱 3 種、ナマコ綱 1 種が新たに記録されたほか、浅海性ウミシダ類 23 種がリストアップされた。これにより本研究で四国西南海域の潮間帯～陸棚上部帯域（水深 0～120m）から記録された棘皮動物は、ウミユリ綱（ウミシダ類）23 種、ヒトデ綱 90 種、クモヒトデ綱 53 種、ウニ綱 47 種、ナマコ綱 33 種、計 246 種となった。この中には未記載種や国内初記録種等が多数あり、今後、詳細な分類学的検討を進める予定である。なお、調査結果の一部を棘皮動物研究集会 10 回大会、はたのおと 2014 などで発表した（4. 業績のまとめと一覧参照）。

・四国沿岸の海産等脚類相に関する研究

これまで十分な知見が得られていなかった四国沿岸の海産等脚類相を明らかにするため、我が国の等脚類研究の第一人者である布村昇氏を招聘し、引き続き共同研究を行った（平成 23 年度より継続）。平成 25 年度は四国沿岸での採集調査を実施し、高知県および徳島県で採集された普通種 31 種の標本群を得た。2013 年 5 月 28 日に黒潮生物研究所において開催された公開セミナーで本研究結果に基づき布村氏が講演を行ったほか、「四国産等脚目甲殻類・2 高知、徳島、香川産標本」として論文がまとめられ、富山市科学博物館研究報告第 38 号に掲載された。また、2015 年 4 月発行予定の *Kuroshio Biosphere*（電子出版）に論文を掲載する予定である。

・四国西南地域における潮間帯生物相調査

四国西南地域の潮間帯生物相を把握するための調査を継続して実施した。平成 25 年度は土佐清水市竜串で市民参加型の現地調査を行い、潮上帯～潮間帯から計 180

種の大型底生無脊椎動物を記録した。このうち約 120 種について標本と写真資料を得た。この資料を基に「海の観察ガイド-土佐清水市竜串編-」がまとめられた(後述)。このほか、2012年7月から2013年3月に高知県の犬伏町、宿毛市、愛媛県の愛南町で行った潮間帯生物相調査で得られた79点の標本(BIK-MO-116~194)を地球規模生物多様性情報機構(GBIF)の生物多様性データベースに登録した。

・海藻相に関する研究

四国沿岸における海藻類の分布状況に関する情報を得るため、前年度に引き続き、調査を行った。平成25年度は愛媛県八幡浜大島で3回の調査を実施した。その結果、1種のコンブ類、9種のホンダワラ類、45種のその他の海藻類を確認した。また、それぞれの垂直分布を明らかにした。四国沿岸全体としては、新たに1種を確認し、押し葉標本を作成した。

○美ら海水族館周辺八方サンゴ類相調査

一般財団法人美ら島財団(旧海洋博覧会記念公園管理財団)と共同調査として平成23年度から継続して行っている調査。美ら海水族館周辺の八放サンゴ相を明らかにすると共に、その成果を展示や図録の刊行等を通して普及するための基礎資料の作成を引き続き行った。この調査は請負業務(H25ウミトサカ標本同定業務)として実施され、結果はH25ウミトサカ標本同定業務報告書として取りまとめた。

○造礁サンゴ類の分類に関する研究

平成20年度に開始した「日本造礁サンゴ分類研究会」における取り組みに引き続き参加した。国内外の研究者と連携し、四国の造礁サンゴの生態に関する知見、分類学的知見を収集し、造礁サンゴ類の分類について再検討を進めた。

○八放サンゴ類の分類に関する研究

八放サンゴ類に関する分類学的検討を進めるため、平成25年度は以下の研究を実施した。

- ・御研究所昭和天皇所蔵標本等に基づいた相模湾産八放サンゴ類標本の再検討(国立科学博物館との共同研究)

国立科学博物館昭和記念筑波研究資料館(御研究所昭和天皇所蔵標本を収蔵)の収蔵標本、東京大学総合博物館収蔵標本、国立科学博物館相模灘調査採集標本、黒潮生物研究所収蔵標本などをもとに、相模湾産八放サンゴ類標本の再検討を行った。この成果は平成26年3月に出版された「相模湾産八放サンゴ類」にまとめられた(後述)。

また、この研究で得られた資料を基に、第9回NCBの公開講演会で講演した。

- ・紀伊大島及び相模湾から採集されたカクレトサカ科未記載種の分類学的研究
- ・デーデルラインが1879-1881年に日本から採集したトゲトサカ類タイプ標本の分類学的研究
- ・高知市沖の八放サンゴ類の分類学的研究(高知大学院生中山真央氏採集標本)
- ・駿河湾産有藻性カタトサカ属の分類学的研究(共同研究機関:静岡県淡島マリパーク)
- ・秋田県沖ウミエラ類の分類学的研究(共同研究機関:秋田県立男鹿水族館)

- ・千葉県館山沖八放サンゴ類の分類学的研究（共同研究機関：お茶の水女子大湾岸生物教育研究センター（館山）、千葉中央博物館分館海の博物館）
- ・タイ国バンコク周辺海域の八放サンゴ類調査（共同研究機関：東京大学大気海洋研究所、国立科学博物館）

○ウミシダ類の分類及び多様性に関する研究

ウミシダ相調査により、高知県大月町西岸から未記載属と思われるウミシダ類の標本が得られたため、棘皮動物研究集会、はたのおとにて発表した。また、詳細な分類学的検討を進めており、投稿論文を作成中。このほか沖縄島から国内初記録のハネウミシダ科2種を採集し、記録した。

○大阪湾海岸生物研究会の生物相調査

大阪湾海岸生物研究会が行った生物相調査（大阪府岬町長崎海岸、和歌山市田倉崎海岸、福井県越前海岸）に研究所員が参加し、地域の生物相に関する情報を収集した。

（2）生態研究

○造礁サンゴ類の生理・生態に関する研究

- ・四国沿岸の造礁サンゴ類の分布、加入、攪乱状況の調査

四国における造礁サンゴ群集の現状と変遷を把握するための基礎調査（平成16年度より継続）。足摺宇和海海域を中心にスポットチェック法およびその他の手法を用いて造礁サンゴ類およびサンゴ食生物の分布状況、その他の攪乱要因の状況を引き続き記録した。本調査は東海大学との共同研究、環境省のモニタリングサイト1000事業などとの連携により行われた（一部、請負業務として実施）。

- ・研究所地先におけるサンゴ類繁殖生態に関する研究

2002年から継続している研究所地先の産卵情報の蓄積を目的として行っているもので、これまでの調査により6月中旬から9月上旬頃の期間の造礁サンゴ類の産卵パターンが明らかとなってきた。平成25年度は6月7日、6月10日～9月2日まで調査を実施した。6月10日に最初の産卵が確認され、日没後では38種の産卵を確認した。この中で産卵の初記録が1種（*Phymastreaea curta*）あり、これまでの8ヶ年の観察で産卵が確認された種数は合計51種となった。また、情報の乏しいシコロサンゴ属の産卵を記録するため、土佐清水市竜串にある見残し湾で調査を行った。この調査は2010年から毎年、継続されており、2011年と2012年に産卵を確認しているが、2013年は産卵を確認することはできなかった。これまでの内容をCoral Reefsで報告した。

- ・その他のサンゴの生理生態に関する共同研究

平成25年度に実施した造礁サンゴ類の整理生態に関する共同研究としては他に以下のようなものがある。

- ・造礁サンゴ類の染色体抽出法に関する研究（高知大学黒潮圏総合科学専攻）

- ・スギノキミドリイシの生理研究（台湾・中央研究院）
- ・ミドリイシ属マイクロサテライト開発（台湾・中央研究院）
- ・スギノキミドリイシ上の細菌の網羅的解析（台湾・中央研究院）
- ・黒潮流域の幼サンゴ群集の変動に関する研究（台湾・中央研究院）
- ・緯度勾配下における稚サンゴの獲得褐虫藻タイプの比較に関する研究（琉球大学）
- ・マイクロセンサーを用いた造礁サンゴの有機・無機炭素生産（東北大学理学研究科地学中山研究室）
- ・増殖礁上のサンゴ群集に関する研究（株式会社海洋建設）

○四国沿岸海域におけるサンゴ類および藻場の分布の変遷に関する研究、および大型底生藻類と造礁サンゴ類の種間関係に関する研究

温帯性種の藻場が衰退し、熱帯性種の藻場と造礁サンゴ類が分布を拡大している高知県沿岸において、藻場とサンゴの相互関係を明らかにするため引き続き研究を行った。前年度と同様に温帯性のホンダワラ類が優占する田野浦でライントランゼクト法による調査を実施した。その結果、コンブ目のカジメが水深 1～8m にかけて広く分布しており、比較的浅い水深帯では、ヒラネジモク、トゲモク、ノコギリモクなどの温帯性ホンダワラ類、深い水深帯では温帯性種のヨレモクモドキと混生していることが分かった。一方、調査ライン上にはミドリイシ類などの 10 種の造礁サンゴ類が確認された。田野浦におけるサンゴの被度は 1% 以下であり、熱帯性ホンダワラ類が優占する土佐清水市竜串（被度 32%）などと比べるとかなり低かったが、優占種はクシハダミドリイシやエンタクミドリイシなどであり、出現種は共通していた。本結果は、6 月の第 13 回日本応用藻類学会で発表し、投稿論文を執筆中。

○ダキクモヒトデの繁殖生態、生活史に関する研究（富永英之氏との共同研究）

不正形ウニ類のタコノマクラやスカシカシパンの体表上で生活するダキクモヒトデ *Ophiodaphne formata*（クモヒトデ目スナクモヒトデ科）のペア形成機構、繁殖周期などを明らかにするため、高知県大月町古満目地先でサンプリングを行った。平成 25 年度は産卵期の 6 月と 8 月、非産卵期の 3 月にサンプリングを実施し、ペア形成の状況の観察、生殖腺の組織学的観察を行った。結果を解析中。

○その他の生態研究

- ・カワギンチャク類の繁殖生態（琉球大学理学部 ライマー研究室）
- ・沖縄島沿岸における棘皮動物類の分布（琉球大学理学部 河井崇氏）

(3) その他（保全対策や保全手法等に関する研究ほか）

○サンゴ種苗生産技術の開発

平成 10 年度より継続している天然群集から得られた配偶子（卵・精子）を用いた有性生殖による種苗生産技術の確立を目指した研究。平成 25 年度は、初期育成水槽中で

幼生が着生する場所の偏りや最適な中間育成法などについて検討し、種苗の歩留まりの向上、安定的な生産を目指した。なお、本研究は、徳島県海陽町で実施されている竹ヶ島海中公園自然再生事業、宿毛湾環境保全連絡協議会の水産多面的機能発揮対策事業等におけるサンゴの種苗生産に応用された（一部関連請負業務）。

○四国沿岸におけるオニヒトデの個体群動態に関する研究

四国沿岸におけるオニヒトデの発生状況を把握し、当該海域で行われるサンゴ食害生物既存資料調査（駆除活動の実績資料等）と現地調査（オニヒトデの分布状況、食害によるサンゴ分布状況の変化を把握するための全域的な調査）を引き続き行った（一部請負業務の中で実施）。成果の一部を土佐清水市で行われたボランティア駆除での勉強会（2013年10月）、平成26年2月に開催された足摺宇和海保全連絡協議会などで報告した。

○大月町竜の浜における藻場造成実験

「すくも湾藻場育成事業」協議会との連携で実施した実験。海藻類が減少・消滅する「磯焼け」状態にある、高知県大月町の竜の浜付近において、ウニ駆除および肥料・鉄の添加によって磯焼けを解消し、藻場を造成できるかどうかを明らかにすることを目的に、平成25年3月～平成26年2月までの期間に実験を行った。その結果、本実験海域においては、2～3カ月に1回に頻度でウニ類の駆除を行う事によって、磯焼けが起きる基準以下にウニ類の密度を抑えられる事が分かった。また、各実験区の海藻類の生育状況を調査した結果、ウニ駆除を行わなかった実験区では海藻類が少ない磯焼け状態が持続した一方で、ウニ駆除を行った実験区では、海藻類の出現種数が2倍ほど多く、被度も有意に高いことが明らかになった。これらのことから、本実験海域は、ウニ類が大量発生しているものの水温や水質などの環境は海藻類が生育できる状態であり、ウニ類を除去することによって、海藻類が生えやすい環境を作り出せるということが分かった。しかし、肥料や鉄の添加条件の違いによる海藻類の生育状況の有意な差は認められなかった。

○棘皮動物由来の新規カロテノイド化合物の検索に関する研究

近畿大学農学部環境管理学科環境化学研究室（坂上吉一教授）との共同研究として、海洋無脊椎動物の生理活性物質に関する研究の一環として棘皮動物を用いた新規カロテノイドの検索を行った。平成25年度は13種の浅海性クモヒトデを分析に供した。結果については同研究室の卒業論文としてとりまとめられたほか、投稿論文を執筆する予定。

○海藻類の表面に生育する微細藻類に関する研究

高知大学の足立真佐雄教授との共同研究として2012年度からの継続。高知県沿岸におけるシガテラ毒を産生する微細藻類の分布および生態を明らかにすることを目的に引き続き研究を行った。2012年9月から基本的に3カ月に1回の頻度で、水深別に海藻を採集し、微細藻類の分離を行い遺伝的な解析を行った。解析の結果、水深30mに

より有毒性微細藻類の種組成や生育量が顕著に異なることが確認された。現在、詳細な結果を解析中。

<調査研究関連の請負業務一覧>

1. H25 ウミトサカ標本同定業務

契約先：一般財団法人 美ら島財団

契約期間：平成 24 年 5 月 2 日～平成 26 年 3 月 20 日

内 容：沖縄県本部町美ら海水族館周辺海域のウミトサカ類標本調査

(4) 研究助成事業

十分な資金を持たない学生や市井の研究者の研究に対して助成を行うことにより、次世代の研究者、地域と密着した研究者の育成を図ることを目的として平成17年度から毎年研究助成を行っている。平成 25 年度は以下の 3 件の研究助成を行い、これまでに助成した件数は 40 件となった。

【平成 25 年度助成研究（助成期間 1 年）】

- 四国西南海域における造礁サンゴに共生する十脚類の種組成とオニヒトデの摂餌に及ぼす影響（斎藤 宇泰（東海大学 大学院） 助成期間：1 年）
- 沖縄－高知海域の稚サンゴの成長および共生褐虫藻相の比較（木島 大雅（琉球大学 大学院） 助成期間：1 年）
- 黒潮流域におけるクラゲ類と魚類の共生関係（近藤 裕介（広島大学 大学院） 助成期間：2 年）

なお、平成 24 年度の 2 年間助成 2 件及び平成 25 年度 1 年間助成 2 件の終了報告、平成 25 年度 2 年間助成者の中間報告をホームページに掲載した。また、平成 26 年度助成研究の募集を 3 月に行った（募集件数 3 件）。

(5) 利用者の受け入れ

平成25年度の調査研究目的の研究所利用状況は利用者数53名、延べ1003人日であった。また、平成25年度から宿泊棟を活用した研修会等の企画・受け入れを行った。これは企業、理科教育に携わる教職員、自然教室指導者、自然活動を行う大学のサークルなどを対象にしたもので、平成25年度は3件実施され、計62名、延べ79人日の利用につながった。(詳しくは「4. 普及啓発」を参照)

表. 研究所利用状況 (調査研究目的)

研究職	4 人	延べ	43 人日
大学教員	6 人	延べ	24 人日
Post Doctor	2 人	延べ	33 人日
大学院生	15 人	延べ	515 人日
大学生	9 人	延べ	341 人日
一般社会人	9 人	延べ	31 人日
学校教員	8 人	延べ	16 人日
合計	53 人	延べ	1003 人日

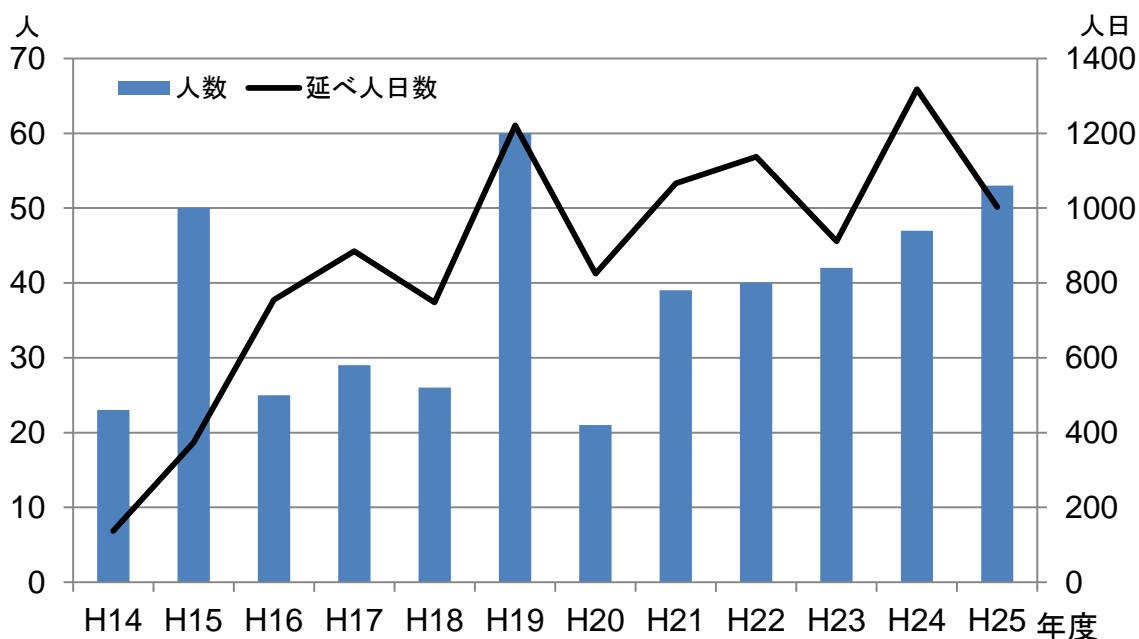


図. 調査研究目的の利用者数の推移

表. 研究所利用状況 (研修会等)

一般社会人	34 人	延べ	43 人日
学校教員	20 人	延べ	20 人日
大学教授	8 人	延べ	16 人日
合計	62 人	延べ	79 人日

2. 保全対策

自然環境の保全に資する事業として平成 25 年度は以下の事業や取り組みを行った。

(1) 宿毛湾環境保全連絡協議会への協力事業（水産多面的機能発揮対策事業への参加）

関係漁協や地域活動団体を構成員として宿毛湾沿岸海域（高知県宿毛市、大月町）における環境保全や藻場・サンゴ群集などの地域資源の維持回復を図る活動に取り組む宿毛湾環境保全連絡協議会（平成 21 年度設立）の活動に引き続き協力した。この事業は平成 25 年度から水産多面的機能発揮対策事業（水産庁事業）として行われているもので、一部の業務（サンゴ礁保全、藻場保全に係るモニタリング、進行管理業務など）を協議会から委託されて行った。なお、大月町橘浦における藻場づくり活動（ウニ除去、ヒロメ増殖等）は平成 25 年度からこの事業の一環として実施されることになった。

<関連する請負業務>

- ・水産多面的機能発揮対策事業モニタリング調査及び進行管理委託業務（宿毛湾環境保全連絡協議会）

(2) 「すくも湾藻場育成事業」協議会への参加

平成 23 年度から、藻場の衰退が著しい宿毛湾海域において、高知県西部を中心とする漁業協同組合、企業、NPO、大学、公共機関などが参加する協議会に参加し、民間主導の藻場育成を行った。平成 23 年度に民間企業から提案のあった施肥ブロックによる藻場育成の実験を引き続き行い、モニタリング調査および効果の判定を行った（この実験の結果については「1. 調査研究」の項を参照）。

(3) 竜串自然再生協議会への協力事業

高知県土佐清水市竜串湾の衰退したサンゴ群集の再生により、竜串湾の豊かな生態系を取り戻すことを目指し、竜串湾及び周辺において実施されている海域の自然再生プロジェクトに引き続き参加・協力した。協議会設立以前の平成 13 年度から行われている海域モニタリング調査を平成 25 年度も引き続き担当し、実施した（一部請負業務）。また、研究所が協議会メンバーとして参加したほか、研究所員が協議会会長、専門家技術支援委員、幹事会メンバーを務めた。このほか、この取り組みに関連して地域で行われている普及啓発活動、環境教育活動などに参加した。

<関連する請負業務>

- ・平成 25 年度竜串地区自然再生事業海藻相調査業務（中国四国地方環境事務所）
- ・平成 25 年度竜串地区自然再生事業海域調査業務（中国四国地方環境事務所）

(4) 竹ヶ島海中公園自然再生協議会への協力事業

徳島県海陽町竹ヶ島海中公園地区で行われている自然再生事業の協議会の活動に引き続き参加した。研究所員が専門委員を務めたほか、研究所が委員として協議会に参加した。

また、徳島県から委託を受けているコンサルタント会社から業務の一部を再委託されて実施しており、専門家会議や協議会に出席し、モニタリング結果の報告や技術支援をおこなった。このほか、地域の NPO が主催するリーフチェック活動にチームサイエンティストとして参加したほか、独自調査としてスポットチェック調査を実施した。また、協議会が行っているエダミドリイシ増殖の取り組みに関して、施設の改良および増殖技術指導などを引き続き行った。

＜関連する請負業務＞

- ・H25 自 竹ヶ島海中公園 海・穴喰浦 自然再生事前調査業務（ニタコンサルタント株式会社）：サンゴの増殖実験、生育状況調査
- ・H25 自 竹ヶ島海中公園 海・穴喰浦 自然再生調査業務2（ニタコンサルタント株式会社）：ライン調査およびサンゴ分布状況の把握（全域調査）

（５）足摺宇和海保全連絡協議会の運営

足摺宇和海国立公園及び周辺の海域で沿岸域の保全に資する活動を行う多様な主体の連携推進、活動支援を目的として平成 20 年 6 月に設立された足摺宇和海保全連絡協議会（会長：中地シュウ，事務局：黒潮生物研究所及び土佐清水自然保護官事務所）を引き続き運営した。平成 25 年度は 2014 年 2 月 26 日に高知県宿毛市の宿毛市文教会館において総会を開催し、協議会メンバーの情報共有を図ったほか、メーリングリストを運用した。

（６）モニタリングサイト 1000 事業への参加

環境省が行っているモニタリングサイト 1000 事業において、四国西南地域の調査サイトのモニタリング調査を担当した（請負業務として実施）。また合わせて、四国太平洋岸の 4 地区 16 地点（高知県香南市夜須町大手の浜周辺、高知県安芸郡奈半利町・田野町周辺、徳島県海陽町竹ヶ島周辺、徳島県牟岐町牟岐大島周辺）に調査協力地点を設けて、地元団体と共同でモニタリング調査を実施した。また、6 月に種子島、11 月に東京で行われた平成 25 年度重要生態系監視地域モニタリング推進事業（モニタリングサイト 1000）沿岸域調査（サンゴ礁）解析ワーキンググループ、2 月に東京で行われたモニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査検討会などに研究所員が環境省から委嘱を受けて参加した。

＜関連する請負業務＞

- ・水産多面的機能発揮対策事業モニタリング調査及び進行管理委託業務（宿毛湾環境保全連絡協議会）：既出
- ・平成 25 年度モニタリングサイト 1000 事業における四国南西部沿岸海域のサンゴ礁モニタリング業務（一般財団法人自然環境研究センター）

（７）四国沿岸で行われるサンゴ食害生物駆除活動への協力

引き続き、四国西南地域などで様々な主体が行っているサンゴ群集の保全を目的としたサンゴ食害生物駆除活動に協力した。この活動は前述の水産多面的機能発揮対策事業、平成 25 年度マリンワーカー事業（足摺地域オニヒトデ等駆除事業）などを利用して行われた（一部委託業務として実施）。平成 25 年度に活動支援・活動協力した団体は、宿毛湾環境保全連絡協議会（宿毛湾海域）、宿毛湾潜水研究会（宿毛市沖の島）、JUDF 四国（宿毛市沖の島）、沖の島海洋レジャー事業組合（宿毛市沖の島）、足摺宇和海国立公園大月地区パークボランティアの会（足摺宇和海国立公園海域）、みんなの海を育てる会（土佐清水市竜串湾）、竜串観光振興会（土佐清水市竜串湾）、宿毛湾ダイビング大月地区部会（大月町沿岸海域ほか）、愛南サンゴを守る会ほか（愛媛県愛南町海域）などである。

＜関連する請負業務＞

平成 25 年度マリンワーカー事業（足摺地域オニヒトデ等駆除事業）（中国四国地方環境事務所）

（８）閉鎖性海域における赤土等の対策手法検討委員会への参加

環境悪化が懸念される沖縄県川平湾の保全対策を検討するための検討委員会に参加した。沖縄県より委嘱を受けて 3 回の委員会（6 月 6 日（那覇）、10 月 29 日（石垣）、2 月 24 日（那覇））に出席したほか、請負業務として平成 24 年度に引き続き、川平湾の生物調査を実施した。

＜関連する請負業務＞

- ・平成 25 年度石垣島川平湾生物調査業務（株式会社東京久栄）

（９）その他の自然環境の保全に資する取り組み

○サンゴ礁生態系保全行動計画フォローアップ会議への参加

前年度に引き続き、環境省より委嘱を受けて研究所員がサンゴ礁生態系保全行動計画フォローアップ会議に参加した。平成 25 年度は 3 月 10 日に会合が行われ、平成 21 年に策定された国のサンゴ礁保全行動計画について、計画通り保全活動が実行されているかどうか点検した。

○宿毛湾沿岸総合管理研究会への参加

宿毛湾地域の沿岸域総合管理について考える宿毛湾沿岸総合管理研究会（2012 年 11 月設立）の活動に引き続き参加した。この研究会は関係行政、漁協、大学や NPO などで構成されており、黒潮生物研究所は団体会員として参加している。平成 25 年度は第 3 回宿毛湾沿岸域総合管理研究会（2013 年 7 月 25 日：宿毛市）、第 4 回宿毛湾沿岸域総合管理研究会（2014 年 4 月 12 日：宿毛市）と 2 回の研究会に参加したほか、2013 年 10 月に志摩市で開催された PNLG Forum 2013「沿岸域総合管理による海を活かしたまちづくり～日本の事例～」に出席し、宿毛湾の事例報告を行った。また、12 月行われたサイト訪問の中で研究所の見学を受け入れた。

○生物多様性こうち戦略（仮称）検討委員会への参加

研究所員が高知県の委嘱を受けて委員として参加（平成 24 年度から継続）。平成 25 年度は検討委員会 4 回、NPO との合同会議 2 回、タウンミーティング 6 回（うち 5 回出席）、事業所研修会 1 回、フォトコンテスト審査会 1 回開催され、これに出席した。高知県の生物多様性の保全を考える上での問題点の洗い出しを行い、「ふるさとのいのちをつなぐ こうちプラン ～生物多様性こうち戦略～」をとりまとめた。

○水産多面的機能発揮対策支援事業に係るサポート専門家

研究所員が全漁連より委嘱を受けて、3 回の会合（サポート専門家会議 8 月 20 日（東京）、講習会 9 月 3-4 日（福岡）、研修会 10 月 22 日（和歌山））に参加した。和歌山県串本町が本支援事業を用いたサンゴ食害生物駆除を検討していたため、本事業の内容や特徴について指導を行った。

<保全対策関連の請負業務一覧（契約日順）>

1. 平成 25 年度竜串地区自然再生事業海藻相調査業務

契約先：中国四国地方環境事務所

契約期間：平成 25 年 4 月 15 日～平成 25 年 7 月 19 日

内 容：串自然再生のための海域モニタリング調査（海藻類）

2. 平成 25 年度マリンワーカー事業（足摺地域オニヒトデ等駆除事業）

契約先：中国四国地方環境事務所

契約期間：平成 25 年 5 月 24 日～平成 26 年 3 月 20 日

内 容：足摺宇和海国立公園の足摺地域におけるボランティアによるオニヒトデ等サンゴ食害生物駆除

3. 平成 25 年度石垣島川平湾生物調査業務

契約先：株式会社東京久栄

契約期間：平成 25 年 5 月 14 日～平成 25 年 8 月 31 日

内 容：沖縄県による「閉鎖性海域における堆積赤土等の対策事業委託業務」における生物調査

4. 平成 25 年度竜串地区自然再生事業海域調査業務

契約先：中国四国地方環境事務所

契約期間：平成 25 年 6 月 14 日～平成 26 年 3 月 20 日

内 容：串自然再生のための海域モニタリング調査

5. 平成 25 年度モニタリングサイト 1000 事業における四国南西部沿岸海域のサンゴ礁モニタリング業務

契約先：一般財団法人自然環境研究センター

契約期間：平成 25 年 7 月 1 日～平成 26 年 1 月 31 日

内 容：四国南西部沿岸における造礁サンゴ群集のモニタリング調査

6. H25 自 竹ヶ島海中公園 海・穴喰浦 自然再生事前調査業務
契 約 先：ニタコンサルタント株式会社
契 約 期 間：平成 25 年 8 月 1 日～平成 26 年 3 月 10 日
内 容：竹ヶ島海中公園自然再生のモニタリング調査（増殖実験、生育調査）
7. 水産多面的機能発揮対策事業モニタリング調査及び進行管理委託業務
契 約 先：宿毛湾環境保全連絡協議会
契 約 期 間：平成 25 年 8 月 2 日～平成 26 年 3 月 20 日
内 容：宿毛湾環境保全連絡協議会によるサンゴおよび藻場の保全活動等
におけるモニタリング調査及び進行管理、技術指導等
8. H25 自 竹ヶ島海中公園 海・穴喰浦 自然再生調査業務 2
契 約 先：ニタコンサルタント株式会社
契 約 期 間：平成 26 年 1 月 21 日～平成 26 年 3 月 25 日
内 容：竹ヶ島海中公園自然再生事業のモニタリング調査（ライン調査、全域
サンゴ分布調査）

3. 普及啓発

(1) 自然史資料の公開展示

○黒潮生物研究所における公開展示

博物館活動の一環として引き続き、研究棟1階で自然史資料の常設展示を行った（宝石サンゴ、造礁サンゴ類、海藻類、棘皮動物等の標本や生態写真の展示、研究報告・普及啓発ポスター等の展示）。

○地域イベント等での自然史資料の公開展示

自然史資料を広く活用し、地域生態系に関する啓蒙を行うため、地域で行われるイベントなどでブース展示等を行う。平成25年度は12月1日に土佐清水市越漁港において行われた第30回土佐清水市産業祭において、四国西南地域で採集された海洋生物の標本や海中景観写真等の自然史資料の展示ブースおよび体験ブース（顕微鏡を用いた微小貝等のソーティング体験）を出展し、多くの来観者があった。また、このほか他の研究教育機関、マスコミ等の要請に応じて自然史資料の貸し出し・提供を行った。

(2) 講演会・談話会・野外観察会等の企画・開催および開催協力・参加

【主催・共催】6件（10回）

①第12回黒潮生物研究所サマースクール（黒潮生物研究所・大月町教育委員会共催）

「雄大な幡多の自然に触れ親しむことで、環境や生き物に対する興味と関心を育て、自然とのよりよいつきあい方について考えてもらう」ことを目的に2泊3日のサマースクールを夏休み期間中に開催した。幡多・南予地方の小学生34名が参加した。

・第12回黒潮生物研究所サマースクール

期日：平成25年7月22-24日

主催：黒潮生物研究所・大月町教育委員会

対象：小学生小4～6年生

内容：自然に触れ親しむキャンプ

②サンゴの産卵観察会

サンゴの産卵観察を通じて普及啓発を行うことを目的として、一般参加者を対象としたサンゴの繁殖生態に関する勉強会とイシサンゴ類の産卵観察会を以下の内容で企画・実施した。

・竜串サンゴの産卵観察会

日時：平成25年7月29日、平成25年8月28日

場所：土佐清水市竜串

主催：NPO 竜串観光振興会・黒潮生物研究所

内容：サンゴの産卵生態に関するレクチャーと爪白海岸でのサンゴの産卵観察

参加者：一般ダイバーほか（7月15名、8月15名）

・柏島後浜でのサンゴの産卵観察会

日時：平成25年8月2日場所

場所：大月町柏島後浜

主催：宿毛湾大月地区ダイビング部会・黒潮生物研究所

内容：柏島後浜でのサンゴの産卵観察

参加者：宿毛湾大月地区ダイビング部会のインストラクター15名

・足摺海洋館での産卵観察

日時：平成 25 年 7 月 27～29 日

場所：足摺海洋館（土佐清水市三崎）

主催：足摺海洋館・黒潮生物研究所・NPO 竜串観光振興会

内容：サンゴの産卵を広く一般に見てもらうため、土佐清水市三崎にある水族館（足摺海洋館）の水槽内にサンゴを設置し、産卵観察を行った。

③竜串リーフチェック及びリーフチェック講演会

平成 19 年から継続して行っている爪白地先海域における海域モニタリング調査。棘皮動物の研究について講演。9 日は講演のみ、16-17 日は調査と講演を実施。

●竜串リーフチェック講演会&リーフチェック

期日：平成 25 年 11 月 9,16-17 日

場所：土佐清水市竜串

主催：NPO 法人竜串観光振興会・黒潮生物研究所

対象：講演会は一般（無料：参加者約 20 人）

④公開セミナー

黒潮生物研究所を利用する外来研究者等に依頼して、それぞれの研究対象に関するセミナーを随時開催している。平成 25 年度は、招聘研究者である布村昇氏を講師として以下の内容で講演会を開催した。近隣の研究者や保全活動団体のメンバー、ダイバーなどが参加した。

日時：平成 25 年 5 月 28 日

場所：黒潮生物研究所レクチャールーム（高知県大月町西泊）

主催：大月地区ダイビング部会・黒潮生物研究所

講演タイトル：「日本産等脚目甲殻類の分類」、「富山湾の生物の特徴」

⑤はた博イベント「はたの夏休み 海辺の生きもの探検隊」のプログラム

平成 25 年度に行われた高知・西南地域観光キャンペーン「楽しまんと！はた博」の一環として 8 月 8 日、9 日に研究所地先海岸での磯の生き物観察会を企画・実施した。室内でのレクチャー、潮間帯の生物観察、採集した生物のスケッチと記録などを行った。8 月 8 日の参加人数は大人 1 名・小学生 1 名・幼児 1 名、8 月 9 日の参加人数は大人 1 名・高校生 1 名・小学生 1 名であった。

⑥第 3 回四国海の守り人交流会

四国太平洋岸で環境活動等を行っている個人や団体の交流会「四国海の守り人交流会」を平成 26 年 1 月 18 日に高知市で開催した。高知県内から 23 名、徳島県、香川県、愛媛県、

岡山県から各 1 人の合計 27 名が参加し、事例報告と意見交換を行った。

【開催協力・参加】 5 件（5 回）

①第 6 回えこらぼの文化祭での体験ブースの出展

こうち男女共同参画センター「ソーレ」において 2014 年 2 月 8・9 日に開催された第 6 回えこらぼの文化祭に参加し、展示および自然体験ブース（微小貝探し）の出展等を行った。

②「第 3 回四国生物多様性会議 高松」への参加

平成 23 年に結成された「四国生物多様性ネットワーク」のコアメンバーとして、高松で行われた四国生物多様性会議の企画運営を行った。また、会場討論の中で「生物多様性地域戦略（高知）策定への道程」と題して事例報告を行った。

テーマ：みんなで考えよう四国の生物多様性 ～瀬戸内地域について～

日 時：平成 25 年 12 月 8 日（日） 13：00～16:30

会 場：高松市男女共同参画センター第 3 会議室

主 催：四国生物多様性ネットワーク、国際自然保護連合日本委員会

内 容：基調講演、各県からの事例報告、会場討論

③平成 25 年度サンゴを食害するオニヒトデ等の駆除に関する情報交換会～日本のサンゴの保全を目指して～への参加

研究所員が現状報告を行い、意見交換に参加した。

日 時：平成 25 年 11 月 12 日 14：00～18:00

会 場：和歌山県水産試験場

主 催：近畿地方環境事務所 共 催：串本町

プログラム：事例報告、意見交換

④沖縄県サンゴ礁保全再生事業シンポジウム「サンゴ礁保全とオニヒトデ研究」への参加

研究所員がパネラーとして参加し、酢酸注射によるオニヒトデ駆除、高緯度地域のサンゴとオニヒトデの現状等について意見を述べた。

日 時：平成 26 年 3 月 5 日（日） 14：00～17:30

会 場：沖縄県立博物館・美術館

主 催：沖縄県 共催：沖縄県サンゴ礁保全推進協議会

プログラム：基調講演、パネルディスカッション

⑤室戸阿南海岸国定公園指定 50 周年イベント「海とサンゴのつどい～豊かな自然の恵みを次世代へ～」への参加

研究所員が基調講演を行い、パネルディスカッションでのコメンテーターを務めた。

日 時：平成 26 年 3 月 8 日 13：30～15:45

会 場：牟岐町海の総合文化センター

主 催：徳島県、牟岐町、海陽町

共 催：千年サンゴと生きるまちづくり協議会、竹ヶ島海中公園自然再生協議会
プログラム：フォトコンテスト授賞式、活動報告（徳島牟岐）、活動報告（徳島県
宍喰）、基調講演（黒潮生物研究所）、パネルディスカッション

（３）環境教育・社会教育の推進（研修会の企画、受け入れ、講師派遣）

海辺の環境や生物を素材とした環境教育、社会教育の推進をめざし、学校や地域の子供会、自治会、NPO 等から沿岸域の環境や生態系、海洋生物をテーマにした授業、講演、研修会等の企画、受け入れ、講師派遣を行った。

○学校機関との連携（実施件数 6 件、実施回数 12 回、派遣講師数 20 人）

小・中学校・高等学校が行う海辺の環境学習や自然学習、地域学習などに協力し、企画立案、実施支援、講師派遣等を行った。

①四万十高等学校自然環境コースの校外学習、卒業研究への協力

- ・四万十高校自然環境コース「海・山・川」のつながり「潮間帯調査実習」（講演・講話）2013/5/10：（高知県土佐清水市竜串）
- ・四万十高校卒業研究指導（野外・室内実習）2013/6/9：高知県幡多郡大月町西泊（黒潮生物研究所）
- ・四万十高校自然環境コース「海・山・川」のつながり「潮間帯調査実習」まとめ（講師）2013/5/10（高知県土佐清水市竜串）

②愛媛県愛南町立内海中学校総合学習（海学習）への協力

- ・内海中学校海学習（全校）地域の海に関する講話（講演）2013/5/13：内海中学校（愛媛県愛南町須ノ川）
- ・内海中学校海学習 3 年生調査法に関するレクチャー（講演）2013/5/13：内海中学校（愛媛県愛南町須ノ川）
- ・内海中学校海学習 3 年生②須ノ川・サバ網代モニタリング調査（野外実習）2013/7/9：須ノ川海岸および内海中学校（愛媛県愛南町須ノ川）
- ・内海中学校海学習 3 年③塩子島モニタリング調査（野外実習）2013/9/13：須ノ川海岸および内海中学校（愛媛県愛南町須ノ川）
- ・内海中学校海学習 3 年④海学習まとめ指導（講師）2013/9/20：内海中学校（愛媛県愛南町須ノ川）

③高知県大月町立大月小学校の総合学習への協力

- ・大月小学校 1 年生課外授業「磯の生き物観察」（講師）2013/6/25：スルギの浜（高知県幡多郡大月町西泊）

④高知県土佐清水市立三崎小学校総合学習への協力（4～6 年生）

- ・三崎小学校 5 年生総合学習「スノーケリング体験」（講師）2013/8/2：竜串湾爪白（高知県土佐清水市爪白）

⑤その他

- ・下川口小学校総合学習 4～5 年（講師）2013/7/11：下川口小学校（高知県土佐清水

市下川口)

・橋上中学校校外学習 1～3 年 (講師) 2014/3/12 : 黒潮生物研究所 (大月町西泊)

○海洋教育、環境教育等に携わる教職員等を対象とした研修会、講演会の開催・協力 (実施件数 4 件、講師派遣回数 6 回、講師派遣人数 8 人)

地域内外における海洋教育、環境教育等の推進を図るため教職員向けの研修会、講演会を企画・実施、あるいは協力を行った。平成 25 年度は大月町学校教職員、土佐清水市教育研究会理科部会、高知県高等学校研究会理科部会、幡多小中学校長会などの研修会の受け入れや講師派遣を行った。

①大月小学校校内研修 (講演、実習) 2013/7/30 : 高知県幡多郡大月町弘見 (大月小学校)

②土佐清水市理科部会研修会 (全三回)

第一回 : 2013/8/9 磯の生き物調査実習① (講演、野外実習)

高知県土佐清水市竜串・爪白

第二回 : 2013/8/21 磯の生き物調査実習② (講演・野外実習)

高知県土佐清水市竜串・爪白

第三回 : 2013/11/6 磯の生き物調査まとめ (講演・室内実習) 清水小学校

③高知県高等学校研究会理科部会幡多支部秋季研修会 (講演および室内実習)

2013/10/18 : 高知県幡多郡大月町西泊 (黒潮生物研究所)

④平成 25 年度 幡多小中学校長会研究大会幡多地区教育問題研究協議会講演会 (講演)

2013/11/1 : 高知県幡多郡大月町弘見 (大月町農村環境改善センター)

○海域保全活動グループ、自然解説活動グループ等の研修会・勉強会 (実施件数 4 件、講師派遣回数 4 回、講師派遣人数 9 人)

海域保全活動メンバーの育成とスキルアップ、自然解説活動の促進を図るため、平成 25 年度は土佐清水観光ボランティア、足摺宇和海国立公園大月地区 PV 研修会、愛媛自然科学教室 (指導者)、愛南サンゴを守る会などの研修会の受け入れ、講師派遣を行った。

①土佐清水観光ボランティア研修 (講演) 2013/6/10 6 月例会学習会 : 高知県土佐清水市竜串

②足摺宇和海国立公園大月地区 PV 研修会 (講演・野外実習) 2013/5/11 : 高知県土佐清水市竜串

③愛媛自然科学教室指導者研修会 (講演および実習) 2013/8/22,23 : 黒潮生物研究所高知県幡多郡大月町西泊

④愛南サンゴを守る会サンゴ保全研修会 (講演および実習) 2013/9/21 : 愛媛県愛南町西海公民館・西海海域

⑤愛媛大学イビング部研修会 (講演およびサイト見学) 2014/2/22 : 高知県幡多郡大月町西泊・黒潮生物研究所

○地域で行われる自然観察会への講師派遣

①環境省土佐清水自然保護官事務所主催足摺宇和海国立公園自然観察会（講師）
2013/8/18：高知県土佐清水市竜串・爪白

（４）広報・出版

○和文機関誌「CURRENT」の発行

財団の活動や地域の海辺の活動や話題に関する情報発信を行うため、研究所設立以来発行している機関誌「CURRENT」を引き続き発行した。平成 25 年度は 14 巻 2 号～4 号（通巻 53～55 巻）を発行し、印刷部数約 360 部のうち、約 260 部を国内の研究機関、博物館、動物園、水族館、その他関連団体、県内の学校、財団に寄附をいただいた方々などに送付した。なお、既刊分の PDF ファイルをホームページからダウンロードできるように整備中。

<平成 25 年度発行分の目次>

●CURRENT Vol. 14, no. 2 [通巻 53 号] (平成 25 年 8 月 25 日発行)

- ・中地シュウ. 2013. カリオヒラムシ *Callioplana marginata*. CURRENT, 14(2): 1.
- ・小渕正美. 2013. ウミシダ類の生活史<後編>. CURRENT, 14(2): 2-3.
- ・中地シュウ. 2013. 高知県大月町南岸での磯の生き物の利用と生物方言について（後編）. CURRENT, 14(2): 4-6.
- ・田中幸記. 2013. 海藻の森をゆく No.9 シロコモク *Sargassum kushimotoense*. CURRENT, 14(2): 7
- ・目崎拓真. 2013. 私の愛するサンゴたち（四国編）No.9 イボサンゴ *Hydonophora exesa*. CURRENT, 14(2): 7
- ・中地シュウ. 2013. 第十二回サマースクールを終えて. CURRENT, 14(2): 8

●CURRENT Vol. 14, no. 3 [通巻 54 号] (平成 25 年 11 月 25 日発行)

- ・中地シュウ. 2013. コグチクモヒトデ *Ophioplocus imbricatus*. CURRENT, 14(3): 1.
- ・鈴木翔子. 2013. 役立たずの同居人!?ハナハゼについて. CURRENT, 14(3): 1-2.
- ・溝渕幸三・岩瀬文人. 2013. 平野の浜の変わった子ガメに思うこと. CURRENT, 14(3): 4-6.
- ・田中幸記. 2013. 海藻の森をゆく No.10 タマハハキモク *Sargassum muticum*. CURRENT, 14(3): 6
- ・中地シュウ. 2013. 足摺宇和海の棘皮動物 7 タコノマクラがマイホーム ダキクモヒトデ. CURRENT, 14(3): 7.
- ・中地シュウ. 2013. 砂粒の中の宝探し. CURRENT, 14(3): 8

●CURRENT Vol. 14, no. 4 [通巻 55 号] (平成 26 年 4 月 25 日発行)

- ・中地シュウ. 2014. ベッコウガサ *Cellana grata*. CURRENT, 14(4): 1.
- ・中地シュウ. 2014. たつくし海辺のガイドブックプロジェクトについて.

CURRENT, 14(4): 2-3.

- ・岩瀬文人. 2014. 第3回四国海の守り人交流会の開催. CURRENT, 14(4): 4.
- ・田中幸記. 2014. 海藻の森をゆく No.11(最終回)イソモク *Sargassum hemiphylum*. CURRENT, 14(4): 5
- ・目崎拓真. 2014. 私の愛するサンゴたち(四国編) No.10 クシハダミドリイシ *Acropora hyacinthus*. CURRENT, 14(4): 5
- ・中地シュウ. 2013. ふれあい市での天然食材探し. CURRENT, 14(4): 6

○英和文学術誌「Kuroshio Biosphere」の発行

平成16年度より、年1回発行している財団の紀要を3月に発行した。研究者を対象に財団業績の紹介、研究所周辺の動植物相、研究所を利用して行われた研究の報告などを掲載する。送付対象は国内外の研究機関、博物館など。発行部数240部程度。発行から1年を経過した巻は、財団ホームページからPDFファイルでダウンロードできる。

<平成25年度発行分の目次>

●“Kuroshio Biosphere” Vol. 10 March 2014

- ・KUBOTA, Shin and Ryo MINEMIZU. Green fluorescence protein (GFP) detected in a medusa of *Aurelia vanhoeffeni* (Cnidaria, Scyphozoa, Coronatae) in Japan. *Kuroshio Biosphere*, 10: 1 + 1pl.
- ・小淵正美・目崎拓真 高知県西泊において2013年夏季の夜間潜水で観察された無脊椎動物の産卵行動. *Kuroshio Biosphere*, 10:3-10 + 2pls.
- ・岩田昭人・山田和彦・久保田信 ヒゼンクラゲとエチゼンクラゲ(刺胞動物門, 鉢虫綱)の三重県と神奈川県沿岸での漁網による捕獲. *Kuroshio Biosphere*, 10:11-13 + 1pl.
- ・久保田信・濱谷巖 和歌山県白浜町沿岸で採取された南方系のフリソデミドリガイ(巻貝綱:ナギサノツユ科). *Kuroshio Biosphere*, 10:15-17 + 1pl.
- ・篠坂賢治・久保田信 ハブクラゲ(刺胞動物門, 箱虫綱)の長らく残る刺傷跡. *Kuroshio Biosphere*, 10:19-20 + 1pl.

○書籍「さんごの海 土佐珊瑚の文化と歴史」の出版

昭和58年3月から12月まで81回にわたって高知新聞に連載された「さんごの海」を基本に、昭和58年以降から近年までの内容を連載記事の著者である庄境邦雄氏により加筆・修正した「さんごの海 土佐珊瑚の文化と歴史」の企画・出版を行った。出版費用には珊瑚商工関係者、NPO法人宝石珊瑚保護育成協議会からの助成金、すくも湾漁業協同組合からの寄附を充てた。平成25年12月27日に発行。

「さんごの海 土佐珊瑚の文化と歴史」

著者：庄境邦雄、企画：黒潮生物研究所、監修：岩瀬文人

発行所：高知新聞 四六版 並製本 278ページ

定価：1800円(税別) 発行：2013年12月27日

○「海の観察ガイド 竜串」の制作

お茶の水女子大学湾岸生物教育研究センターが日本財団の助成を得て行っている海洋教育プログラムの一環として、「海の観察ガイド」シリーズの土佐清水市竜串編を企画・作成した。ガイドブック作成に当たり、竜串湾で地域の小学生や高校生、自然解説活動団体、教職員が参加した潮間帯生物相調査を実施し、資料を収集した。本ガイドブックは 3,300 部が印刷され、調査に参加した団体・個人、海洋教育を行う団体、地域の小学校などに無償で配布した。

「海の観察ガイド 高知県土佐清水市竜串編」

企 画：黒潮生物研究所、監 修：公益財団法人 黒潮生物研究所

発 行：お茶の水女子大学 湾岸生物教育研究センター 77 ページ

発 行：2014 年 3 月 1 日 印刷部数：3300 部

○「奈半利・田野沖サンゴ群集調査報告書～スポットチェック 10 年の歩み～」の制作

高知県の助成金を得て、奈半利町天然資源活用委員会が出版した活動報告の冊子の原稿作成（寄稿）および編集作業を黒潮生物研究所が担当した。

○ホームページ・ブログの運用

引き続き、ホームページ・ブログを運用し、引き続き情報公開、黒潮生物研究所の紹介、発行している機関誌や学術誌の紹介、イベント等各種の告知、財団が実施している業務の紹介などを行った。なお、ブログは 6 月から 9 月の間、研究員によるサンゴの産卵記録を毎日掲載しており、多くの閲覧があった。

○マスコミ等への情報提供 11 件

【新聞への掲載】 7 件

記事本文中に財団名、研究所名があるもの

- ・2013.7.4 読売新聞西部夕刊 空を巡る「夢の国」守り神未来へ
- ・2013.7.10 愛媛新聞朝刊 サンゴの生態 記事に 愛南内海中 須ノ川海岸を調査
- ・2013.8.3 愛媛新聞朝刊 サンゴの海 異変 愛南・須ノ川 「卓状」大量斃死
- ・2013.8.15 愛媛新聞朝刊 海の異変サンゴの生態記事に 愛南内海中須ノ川海岸を調査
- ・2013.12.02 高知新聞 中芸沖サンゴ成育順調
- ・2014.2.23 高知新聞 中芸沖サンゴ調査 10 年
- ・2014.3.01 山陽新聞 貝殻の魚礁サンゴ繁殖

【ラジオ出演】 1 件

- ・2014.1.21 FM 高知 「奈半利沖サンゴとの関わり」インタビュー形式

【番組制作協力等】 3 件

- ・2014.6.8 (予定) NHK ダーウィンが来た「シリーズ東京湾：外湾編」：編集協力
- ・2013.12.13 イブニング KOCHI 「高知の海の現状」：取材協力
- ・2013.7.10 こども高知新聞 読もっか『高知 50 音事典』さ サンゴ：取材協力

【その他】 1件

・香南市広報 こうなん NOW6月号に寄稿

4. 業績のまとめと一覧

平成25年度における業績数は、黒潮生物研究所の研究者（所長含む）による査読あり原著6件、査読なし原著等11件、その他著作28件、学会発表等20件、その他講演等37件となっており、前年度とほぼ同様の水準の業績を上げている（「図. 研究所業績の推移」参照）。

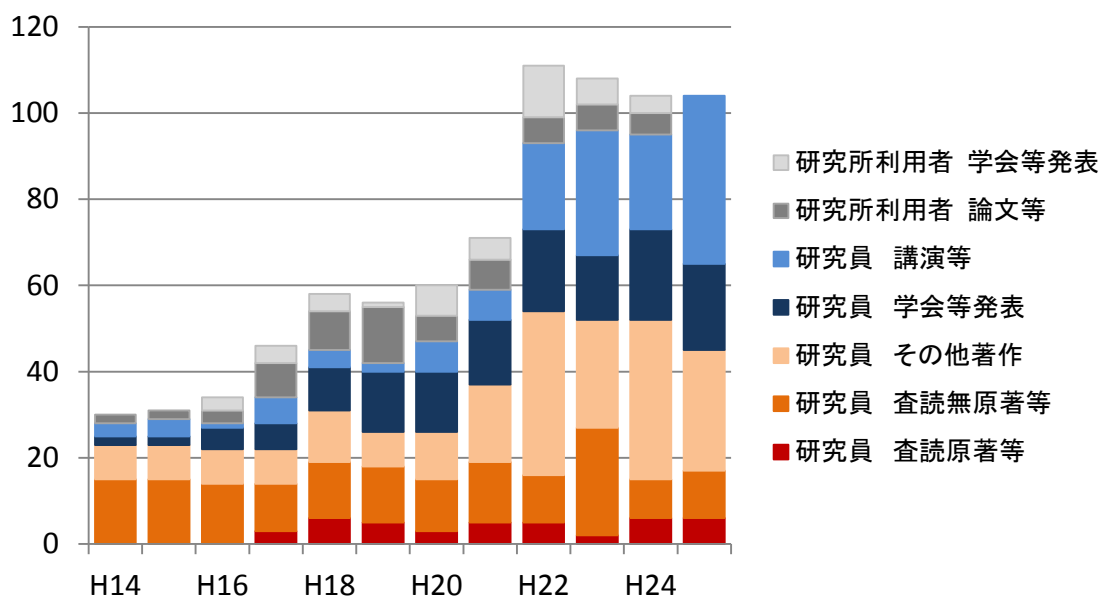


図. 研究所業績の推移

なお、平成25年度の保全対策事業、普及啓発事業における講師派遣件数は45件、講師派遣人数は57人となっている。

(1) 著作（著者等の内、財団職員等は下線で示す）

【査読あり原著等】6件

1. Mezaki T, Keshavmurthy S, Chen C. A., 2013, An old and massive colony of *Pavona decussata* is sexually active at high latitude (32°N) in Japan. *Coral Reefs*, DOI 10.1007/s00338-013-1080-7
2. Nami Okubo, Takuma Mezaki, Yoko Nozawa, Yoshikatsu Nakano, Yi-Ting Lien, Hironobu Fukami, David C Hayward, Eldon E Ball, 2013, Comparative embryology of eleven species of stony corals (scleractinia), *PLoS ONE* 8(12):e84115. DOI:10.1371/journal.pone.0084115

3. Takahiro Taguchi, Takuma Mezaki, Fumihito Iwase, Satoko Sekida, Satoshi Kubota, Hironobu Fukami, Kazuo Okuda, Teruyuki Shinbo, Syun-Ichirou Oshima, Yoshiaki Liguni, Joseph R Testa, Akira Tominaga, 2014, Molecular Cytogenetic Analysis of the Scleractinian Coral *Acropora solitaryensis* Veron & Wallace 1984. ZOOLOGICAL SCIENCE, 02/2014; 31(2): 89-94. DOI:10.2108/zsj.31.89.
4. Kitano, Y.F., M. Obuchi, D. Uyeno, K. Miyazaki and H. Fukami, 2013. Phylogenetic and taxonomic status of the coral *Goniopora stokesi* and related species (Scleractinia: Poritidae) in Japan based on molecular and morphological data. Zoological Studies, 52: 25.
5. Imahara, Y., 2013. Two new paraclyoniid octocorals *Ceeceenus retractus* n. sp and *Nanalcyon sagamiense* n. gen. n. sp. from Japan. ZooTaxa, 3652(4): 424-436.
6. Imahara, Y., 2013. Redescriptions of five species of Japanese *Dendronephthya* (Octocorallia, Alcyonacea) based on type material collected by Döderlein in 1879-81. Species Diversity, 18: 111-134.

【査読なし原著等】 11 件

1. 小淵正美, 2013. ウミシダ類の生活史<後編>. CURRENT, 14(2): 2-3.
2. 中地シュウ, 2013. 高知県大月町南岸での磯の生き物の利用と生物方言について (後編). CURRENT, 14(2): 4-6.
3. 溝淵幸三, 岩瀬文人, 2013. 平野の浜の変わった子ガメに思うこと. CURRENT, 14(3): 4-6.
4. 中地シュウ, 2013. 足摺宇和海の棘皮動物 7 タコノマクラがマイホーム ダキクモヒトデ. CURRENT, 14(3): 7.
5. 目崎拓真, 2013. 奈半利・田野沖サンゴ群集 スポットチェック10年のあゆみ. 奈半利・田野沖サンゴ群集調査報告書. 1-10.
6. 田中 幸記, 2013. 移り変わる海藻たち スポットチェック10年のあゆみ. 奈半利・田野沖サンゴ群集調査報告書. 14-17.
7. 目崎拓真, 2013. タイムトラベルのできる海. 奈半利・田野沖サンゴ群集調査報告書. 18-19.
8. 中地シュウ, 2014. たつくし海辺のガイドブックプロジェクトについて. CURRENT, 14(4): 2-3.
9. 小淵正美, 目崎拓真, 2014. 高知県西泊において 2013 年夏季の夜間潜水で観察された無脊椎動物の産卵行動. Kuroshio Biosphere, 10:3-10.
10. 今原幸光, 岩瀬文人, 並河洋, 2014. 相模湾産八放サンゴ類. 東海大学出版会 (秦野). 398pp. (Yukimitsu Imahara, Fumihito Iwase and Hiroshi Namikawa. 2014. The Octocorals of Sagami Bay. Tokai University Press, Tokyo)
11. 中地シュウ, 2014. 四国西南海域の棘皮動物. 愛媛の自然, 55(10): 7-8.

【その他の著作】28件

●機関紙関係（12件）

1. 中地シュウ. 2013. カリオヒラムシ *Callioplana marginata*. CURRENT, 14(2): 1.
2. 田中幸記. 2013. 海藻の森をゆく No.9 シロコモク *Sargassum kushimotoense*. CURRENT, 14(2): 7
3. 目崎拓真. 2013. 私の愛するサンゴたち(四国編) No.9 イボサンゴ *Hydonophora exesa*. CURRENT, 14(2): 7
4. 中地シュウ. 2013. 第十二回サマースクールを終えて. CURRENT, 14(2): 8
5. 中地シュウ. 2013. コグチクモヒトデ *Ophioplocus imbricatus*. CURRENT, 14(3): 1.
6. 田中幸記. 2013. 海藻の森をゆく No.10 タマハハキモク *Sargassum muticum*. CURRENT, 14(3): 6
7. 中地シュウ. 2013. 砂粒の中の宝探し. CURRENT, 14(3): 8
8. 中地シュウ. 2014. ベッコウガサ *Cellana grata*. CURRENT, 14(4): 1.
9. 岩瀬文人. 2014. 第3回四国海の守り人交流会の開催. CURRENT, 14(4): 4.
10. 田中幸記. 2014. 海藻の森をゆく No.11 (最終回) イソモク *Sargassum hemiphylum*. CURRENT, 14(4): 5
11. 目崎拓真. 2014. 私の愛するサンゴたち(四国編) No.10 クシハダミドリイシ *Acropora hyacinthus*. CURRENT, 14(4): 5
12. 中地シュウ. 2013. ふれあい市での天然食材探し. CURRENT, 14(4): 6

●機関紙以外（7件）

1. 中地シュウ. 2013.6 知っちょこ！大月まめ知識 Vol.6 ～潮を招くカニ ハクセンシオ マネキ～. 広報おおつき, No.233:4
2. 中地シュウ. 2013.8 知っちょこ！大月まめ知識 Vol.7 ～樹液採集にいこうークワガタムシ～. 広報おおつき, No.234: 16
3. 中地シュウ. 2013.10. 知っちょこ！大月まめ知識 Vol.8 ～絶品！「はりめ」の一夜干し～. 広報おおつき, No.235: 9
4. 中地シュウ. 2013.12 知っちょこ！大月まめ知識 Vol.9 ～みんな大好き、水晶拾い～. 広報おおつき, No.236: 17
5. 中地シュウ. 2013.2 知っちょこ！大月まめ知識 Vol.10 ～水辺の宝石 カワセミ～. 広報おおつき, No.237: 17
6. 中地シュウ. 2013.4 知っちょこ！大月まめ知識 Vol.11 ～磯の味覚 ぐじま(ヒザラガイ)～. 広報おおつき, No.238: 22
7. 今原幸光(編著). 2013. フィールド版写真でわかる磯の生き物図鑑, 280pp. トンボ出版. 大阪.

●調査報告書等（9編）

1. 平成 25 年度竜串地区自然再生事業海藻相調査業務報告書 2013.7. (中国四国地方環境事務所)
2. 平成 25 年度マリンワーカー事業 (足摺地域オニヒトデ等駆除事業) 報告書 2014.3 (中国四国地方環境事務所)
3. H25 ウミトサカ標本同定業務報告書 2014.3 (一般財団法人 美ら島財団)
4. 平成 25 年度石垣島川平湾生物調査業務報告書 (技術員派遣に係る調査実施分) 2013.8 (株式会社東京久栄)
5. 平成 25 年度竜串地区自然再生事業海域調査業務 2014.3 (中国四国地方環境事務所)
6. 平成 25 年度モニタリングサイト 1000 事業における四国南西部沿岸海域のサンゴ礁モニタリング業務報告書 2014.1 (一般財団法人自然環境研究センター)
7. H25 自 竹ヶ島海中公園 海・穴喰浦 自然再生事前調査業務報告書 2014.3. (ニタコンサルタント株式会社)
8. 水産多面的機能発揮対策事業モニタリング調査及び進行管理委託業務報告書 2014.3 (宿毛湾環境保全連絡協議会)
9. H25 自 竹ヶ島海中公園 海・穴喰浦 自然再生調査業務 2 報告書 2014.3 (ニタコンサルタント株式会社)

(2) 講演等 (学会発表、依頼講演)

○学会・研究集会等 20 件 (著者等の内、財団職員等は下線で示す)

1. 大久保奈弥・目崎拓真・野澤洋耕・中野義勝・Lien Yi-Ting・深見裕伸・David Hayward・Eldon Ball. 2013.6. イシサンゴ目の発生様式は 1 種の例外を除いて大きく 2 つのグループに分かれる. 日本動物分類学会第 49 回大会 (宮城教育大学) ポスター発表
2. 田中幸記, 目崎拓真, 田井野清也, 平岡雅規. 2013.6.8. 温暖化する高知県で唯一残る天然カジメ群落と造礁サンゴ類の分布特性. 第 13 回日本応用藻類学会 (東京海洋大学): ポスター発表
3. Yuko Kato, Yoichi Sakakibara, Mitsuru Jimbo, Sachiko Matsushashi, Hajime Mita, Yukimitsu Imahara, Reiko Onizuka. 2013.8.23. Research of Novel Allergenic Protein which shows the New RFP Character. . ASIANALYSIS XII (第 12 回日本分析化学会議)。
4. 田中幸記・目崎拓真・田井野清也・平岡雅規. 2012.7. 高知県における熱帯性・温帯性ホンダワラ類の分布様式と造礁サンゴ類との関係. 第 36 回日本藻類学会札幌大会 (北海道大学) ポスター発表
5. Shoko SUZUKI, Mizuki KIMURA, Nagisa SHIRAI, Fumihito IWASE, Masao NAKANO and Izumi AKAGAWA. 2013.10.01. Influence of choosing burrow and mate on behavior in *Ptereleotris hanae*. the 46th Annual Meeting of the Ichthyological Society of Japan (Miyazaki・Miyazaki Kanko Hotel) Oral

Presentation.

6. 田中幸記, 目崎拓真, 中地シュウ, 中野松生, 中野正夫. 2013.9.7. 高知県大月町におけるウニ除去とヒロメ *Undaria undarioides* を用いた藻場造成実験. 日本島嶼学会 (高知県大月町) 口頭発表
7. Mezaki TAKUMA. 2013.9.30. Coral spawning patterns in Kochi, High-latitude Japan. 台湾中央研究院
8. 今原幸光. 2013.10.4-6. 相模湾産八放サンゴ類出版計画について. 第 9 回日本刺胞動物・有櫛動物等研究談話会. いおワールドかごしま水族館 (鹿児島県鹿児島市) 口頭発表
9. 岩瀬文人. 2013.10.5. 明治の八放サンゴ研究を助けた鹿児島の珊瑚網漁. 日本刺胞動物有櫛動物研究談話会. いおワールドかごしま水族館 (鹿児島県鹿児島市) 口頭発表
10. 加村聡・片山真基・目崎拓真・中地シュウ・田原実. 2013.12. 宇和島氏海域の貝殻増殖礁に確認されたサンゴ群集の現状及び評価. 日本サンゴ礁学会第 16 回大会 (OIST) 口頭発表
11. 木島大雅・依藤実樹子・Frederic Sinniger・目崎拓真・波利井佐紀. 2013.12. 沖縄一高知海域の稚サンゴの成長および共生褐虫藻相の比較. 日本サンゴ礁学会第 16 回大会 (OIST) ポスター発表
12. 中地シュウ. 2013.12.8. 四国西南海域のウニ相について. 第 10 回日本棘皮動物研究集会 (富山大学) ポスター発表.
13. 目崎拓真・田中幸記・中地シュウ・加村聡・片山真基・田原実. 2013.12. 愛媛県西南部海域における造礁サンゴ群集の分布. 日本サンゴ礁学会第 16 回大会 (OIST) ポスター発表
14. 小淵正美, 大森紹仁. 2013.12.8. 四国西南部の浅海産ウミシダ相と柏島周辺から得られた未記載種について. 第 10 回日本棘皮動物研究集会 (富山大学) ポスター発表.
15. 斎藤宇泰・中地シュウ・岩瀬文人・横地洋之. 2013.12.13. 四国西南海域における造礁サンゴに共生する十脚類の種組成とオニヒトデの摂餌に及ぼす影響. 日本サンゴ礁学会第 16 回大会. (沖縄・沖縄科学技術大学院大学) ポスター発表
16. 中地シュウ. 2014. 2.1. 四国西南海域のウニ相について. はたのおと 2014 (高知県土佐清水市三崎: 三崎小学校) ポスター発表.
17. 小淵正美. 2014. 2.1. 四国西南部の浅海産ウミシダ相と柏島周辺から得られた未記載種について. 第 4 回はたのおと (土佐清水市) ポスター発表.
18. 目崎拓真・佐野美月・浜口和也. 2014.2.1. 土佐清水市竜串湾見残しの巨大シコロサンゴの産卵. はたのおと 2014 (高知県土佐清水市三崎: 三崎小学校) ポスター発表
19. 椿 俊太郎, 田中 幸記, 鈴木 慎司, 川俣 茂, 平岡 雅規, 2014.3.15-16. 潮間体の海藻の力学的特性と細胞壁多糖. 第 38 回日本藻類学会船橋大会 (東邦大学): 口頭発表
20. 小淵正美, 渡邊謙太. 2014.3.16. 大浦湾・辺野古の生物多様性を育むもの. 第 61 回日本

生態学会大会（広島市）. 企画集会「琉球弧の自然保護」内 口頭発表.

○依頼講演等（39件）

1. 中地シュウ. 2013.5.10. 地域の海を知る -磯浜の海岸生物調査-. 四万十高校自然環境コース2年校外学習. 足摺海洋館レクチャールーム（高知県土佐清水市竜串）
2. 中地シュウ. 2013.5.11. 海辺を記述する. 平成25年度足摺宇和海国立公園大月地区PV研修会. 海のギャラリー（高知県土佐清水市竜串）
3. 中地シュウ. 2013.5.13. 地域の海の魅力を知ろう ここがすごいぞ！足摺宇和海の海. 内海中学校海学習（全校）. 内海中学校（愛媛県愛南町須ノ川）
4. 中地シュウ. 2013.5.13. モニタリング調査法について. 内海中学校海学習3年生. 内海中学校（愛媛県愛南町須ノ川）
5. 中地シュウ. 2013.6.10. 潮間帯の生き物の暮らし -明日のガイドに役立つ小ネター-. 土佐清水観光ボランティア研修6月例会学習会. 海のギャラリー（高知県土佐清水市竜串）
6. 中地シュウ. 2013.6.25. 海辺で遊ぼう. 大月小学校1年生課外授業. 黒潮生物研究所（高知県幡多郡大月町西泊）
7. 岩瀬文人. 2013.7.6. 海から見た幡多の生物多様性. みんなで考え、守ろう地域の暮らしと生きものの未来. 西部・海岸地域. 高知県主催（宿毛市文教会館）
8. 中地シュウ. 2013.7.11. 磯の達人ウルトラクイズ. 下川口小学校総合学習4~5年. 下川口小学校（高知県土佐清水市下川口）
9. 目崎拓真. 2013.7.29. サンゴの産卵について. 竜串サンゴの観察会. 竜串ダイビングセンター（土佐清水市竜串）
10. 中地シュウ. 2013.7.30. 大月町の自然の魅力とその特徴. 大月小学校校内研修. 大月小学校（高知県大月町弘見）
11. 中地シュウ. 2013.7.30. 地域の海の移り変わりとお豊かな海を守り育てる取り組み. 大月小学校校内研修. 大月小学校（高知県大月町弘見）
12. 中地シュウ. 2013.7.30. 潮間帯を使った自然観察プログラム. 大月小学校校内研修. 大月小学校（高知県大月町弘見）
13. 中地シュウ. 2013.8.9. 身近な海辺で学ぶ-潮間帯の環境と生物を素材とした環境教育・自然教育. 土佐清水市教育研究会理科部会研修会. 足摺海洋館レクチャールーム（高知県土佐清水市三崎）・
14. 中地シュウ. 2013.8.22. 海辺での自然観察手法について. 愛媛自然科学教室指導者研修会. 黒潮生物研究所レクチャールーム（高知県幡多郡大月町西泊）
15. 中地シュウ. 2013.8.22. 足摺宇和海国立公園地域の自然の特徴と魅力. 愛媛自然科学教室指導者研修会. 黒潮生物研究所レクチャールーム（高知県幡多郡大月町西泊）
16. 田中幸記. 2013.8.22. 海洋生物の生態「高知の海藻について」. 愛媛自然科学教室指導

- 者研修会. 黒潮生物研究所レクチャールーム (高知県幡多郡大月町西泊)
17. 目崎拓真. 2013.8.28. サンゴの産卵について. 竜串サンゴの観察会. 竜串ダイビングセンター (土佐清水市竜串)
 18. 中地シュウ. 2013.9.21. サンゴの食害生物について. 愛南サンゴを守る会サンゴ保全研修会. 西海公民館 (愛媛県愛南町西海).
 19. 中地シュウ. 2013.10.1. 日本の事例報告「高知県宿毛湾海域における保全の取り組み」. 東アジア地方自治体沿岸域管理フォーラム (PNLG Forum 2013). 合歓の郷ホテル&リゾート (三重県志摩市浜島町)
 20. 中地シュウ. 2013.10.18. 幡多・南予地域の海の魅力と海辺の教育活動について. 高知県高等学校研究会理科部会幡多支部秋季研修会. 黒潮生物研究所 (高知県大月町西泊)
 21. 中地シュウ. 2013.10.19. 足摺宇和海国立公園海域におけるオニヒトデの大発生とサンゴ保全活動. 竜串ダイビングセンター主催ボランティア駆除. 竜串ダイビングセンター (高知県土佐清水市竜串)
 22. 目崎拓真. 2013.10.23. 温暖化とどうつきあうか. 物部キャンパスフォーラム. 高知大学朝倉キャンパス (高知市朝倉)
 23. 中地シュウ. 2013.11.1. 幡多・南予地域の海の魅力と特徴 -地域教育・環境教育のフィールドとしての可能性- 平成 25 年度 幡多小中学校長会研究大会・幡多地区教育問題研究協議会. 大月町農村環境改善センター (高知県幡多郡大月町弘見)
 24. 中地シュウ. 2013.11.6. 竜串湾の海辺の生き物. 土佐清水市教育研究会理科部会研修会. 清水中学校 (高知県土佐清水市)
 25. 小淵正美. 2013.11.9. 海中を彩るスターたち. 竜串リーフチェック勉強会. 竜串ふれあいセンター (土佐清水市三崎)
 26. 岩瀬文人. 2013.11.12. 四国におけるサンゴ食害生物の状況. 平成 25 年度サンゴを食害するオニヒトデ等の駆除に関する情報交換会～日本のサンゴの保全を目指して～. 近畿地方環境事務所主催 (串本町・和歌山県水産試験場)
 27. 田中幸記. 2013.11.14,15. 高知県の事例. 平成 25 年度瀬戸内海ブロック水産業関係研究開発推進会議生産環境部会藻類情報交換会 (広島市)
 28. 小淵正美. 2013.11.16. 海中を彩るスターたち. 竜串リーフチェック勉強会. 竜串ふれあいセンター (土佐清水市三崎)
 29. 目崎拓真. 2013.11.30. 高知県沿岸海域における造礁サンゴ類の分布拡大の現状と課題. 高知大学物部キャンパス.
 30. 目崎拓真. 2013.11.30. 奈半利・田野沖サンゴの総合的研究成果の報告. 田野町ふれあいセンター
 31. 岩瀬文人. 2013.12.8. 生物多様性地域戦略 (高知) 策定への道程. 第 3 回四国生物多様性会議高松ーみんなで考えよう四国そして香川の生物多様性ー. 四国生物多様性

ネットワーク主催（高松市・高松市男女共同参画センター）

32. 今原幸光. 2013.12.11-13. 日本学術振興会の東南アジア研究教育拠点形成事業（代表機関東京大学大気海洋研究所）プログラム「八放サンゴ分類学の国際ワークショップ」.（国立科学博物館筑波地区研究施設動物研究部実習室）
33. 中地シュウ. 2014.1.18. 高知県土佐清水市竜串における海辺のガイドブックづくりの取り組みについて. 第3回四国海の守り人交流会（高知・かるぼーと）
34. 岩瀬文人. 2014.1.18. 書籍「さんごの海」の出版. 第3回四国海の守り人交流会（高知・かるぼーと）
35. 中地シュウ. 2014. 2. 9. 黒潮生物研究所の紹介. 第6回えこらぼの文化祭 10分プレゼン. 高知男女共同参画センター「ソーレ」（高知県高知市旭町）
36. 中地シュウ. 2014.3.12. 黒潮生物研究所の取り組みと地域の自然. 橋上中学校校外学習 1～3年. 黒潮生物研究所（高知県幡多郡大月町西泊）
37. 今原幸光. 2014.4.15. 相模湾産八放サンゴ類の分類. 京都大学瀬戸臨海実験所第38回海洋生物学セミナー
38. 中地シュウ. 2014.2.22. 四国西南地域の海辺の魅力と海域保全活動について. 愛媛大学イビング部研修会. 黒潮生物研究所（高知県幡多郡大月町西泊）
39. 岩瀬文人. 2014.3.8. 海の魅力・サンゴの不思議. 室戸阿南海岸国定公園指定50周年イベント「海とサンゴのつどい～豊かな自然の恵みを次世代へ～」徳島県主催（牟岐町・牟岐町海の総合文化センター）：基調講演

（3）講師派遣実績（45件、派遣講師数57人）

1. 中地シュウ, 小渕正美. 2013.5.10. 四万十高校海洋環境教育2年生校外学習 潮間帯調査（高知県土佐清水市竜串海岸）
2. 中地シュウ, 小渕正美. 2013.5.11. 足摺宇和海国立公園大月地区PV研修会 潮間帯生物調査実習（高知県土佐清水市竜串）
3. 中地シュウ. 2013.5.13. 内海中学校海学習（愛媛県愛南町須ノ川内海中学校）
4. 中地シュウ. 2013.5.27. 三崎小学校4年生 いそのかんさつ（高知県土佐清水市爪白竜串海洋館および竜串湾桜浜）
5. 岩瀬文人. 2013.5.25-26. あど未来主催リーフチェック in 宍喰 2013.（徳島・海陽町）
6. 中地シュウ, 小渕正美. 2013.6.9. 四万十高校卒業研究指導（高知県幡多郡大月町西泊黒潮生物研究所）
7. 中地シュウ. 2013.6.10. 土佐清水観光ボランティア研修6月例会学習会.（高知県土佐清水市竜串海のギャラリー）
8. 中地シュウ. 2013.6.25. 大月小学校1年生課外授業「磯の生き物観察」（高知県幡多郡大月町西泊黒潮生物研究所およびスルギの浜）

9. 岩瀬文人. 2013.7.6. 高知県主催「みんなで考え、守ろう地域の暮らしと生きものの未来. 西部・海岸地域」(宿毛市文教会館)
10. 中地シュウ, 小渕正美. 2013. 7. 9. 内海中学校海学習 3 年生②須ノ川・サバ網代モニタリング調査 (愛媛県愛南町須ノ川)
11. 中地シュウ, 小渕正美. 2013.7.11. 下川口小学校総合学習 4~5 年 (高知県土佐清水市下川口 下川口小学校)
12. 中地シュウ, 小渕正美. 2013.7.12. 四万十高校海洋環境教育 2 年 竜串潮間帯生物調査データとりまとめ (高知県高岡郡四万十町 四万十高校)
13. 中地シュウ, 田中幸記, 目崎拓真, 岩瀬文人, 小渕正美, . 2013.7.22. 黒潮生物研究所サマースクール (高知県幡多郡大月町西泊)
14. 目崎拓真, 中地シュウ. 2013.7.29. 竜串サンゴ産卵観察会 7 月分 (高知県土佐清水市爪白海岸)
15. 中地シュウ. 2013.7.30. 大月小学校校内研修 (高知県大月町弘見 大月小学校)
16. 中地シュウ, 小渕正美. 2013.8.9. 土佐清水市教育研究会理科部会研修①たつくし磯の生き物調査 (高知県土佐清水市爪白海岸)
17. 中地シュウ. 2013. 8. 16. 宿毛潜水研究会海域保全活動 (高知県宿毛市沖の島)
18. 中地シュウ, 小渕正美. 2013.8.18. 足摺宇和海国立公園自然観察会 (高知県土佐清水市爪白海岸)
19. 中地シュウ, 小渕正美. 2013.8.21. 土佐清水市理科部会研修②たつくし磯の生き物調査 (高知県土佐清水市竜串海岸)
20. 中地シュウ. 2013.8.22. 愛媛自然科学教室指導者研修会「潮間帯生物の採集と観察」(高知県幡多郡大月町西泊 黒潮生物研究所およびシウラの浜)
21. 目崎拓真, 小渕正美. 2013.8.28. 竜串サンゴ産卵観察会 8 月分 (高知県土佐清水市爪白海岸)
22. 中地シュウ, 小渕正美. 2013.9.13. 内海中学校海学習 3 年塩子島モニタリング調査 (愛媛県愛南町内海 塩子島および内海中学校)
23. 中地シュウ, 小渕正美. 2013.9.20. 内海中学校海学習 3 年④海学習まとめ (愛媛県愛南町内海 内海中学校)
24. 中地シュウ. 2013.9.21. 愛南サンゴを守る協議会勉強会&スポットチェック調査 (愛媛県愛南町西海)
25. 中地シュウ. 2013.10.18. 高知県高等学校研究会理科部会幡多支部秋季研修会 (高知県大月町西泊黒潮生物研究所)

26. 中地シュウ. 2013.10.19. 竜串ダイビングセンター主催ボランティア駆除（高知県土佐清水市竜串 竜串ダイビングセンターおよび竜串湾）
27. 目崎拓真. 2013.10.23. 物部キャンパスフォーラム（高知市朝倉 高知大学朝倉キャンパス）
28. 中地シュウ. 2013.11.1. 平成 25 年度 幡多小中学校長会研究大会・幡多地区教育問題研究協議会（高知県幡多郡大月町弘見 大月町農村環境改善センター）
29. 中地シュウ. 2013.11.6. 土佐清水市教育研究会理科部会研修会③たつくし磯の生き物調査まとめ（高知県土佐清水市清水中学校）
30. 小淵正美. 2013.11.9. NPO 法人竜串観光振興会主催竜串リーフチェック勉強会（土佐清水市三崎竜串ふれあいセンター）
31. 岩瀬文人. 2013.11.12. 近畿地方環境事務所主催「平成 25 年度サンゴを食害するオニヒトゲ等の駆除に関する情報交換会～日本のサンゴの保全を目指して～」（串本町・和歌山県水産試験場）
32. 田中幸記. 2013.11.14,15.平成 25 年度瀬戸内海ブロック水産業関係研究開発推進会議生産環境部会藻類情報交換会（広島市）
33. 小淵正美. 2013.11.16. 竜串リーフチェック（高知県土佐清水市竜串湾）
34. 目崎拓真. 2013.11.30. 物部キャンパスフォーラム（高知大学物部キャンパス）
35. 目崎拓真. 2013.11.30. 奈半利・田野沖サンゴ調査報告会（田野町ふれあいセンター）
36. 中地シュウ. 2013.12.1. 第 30 回土佐清水市産業祭「足摺宇和海国立公園の自然に関するブース展示および体験コーナー」（高知県土佐清水市越漁港）
37. 岩瀬文人. 2013.12.8. 四国生物多様性ネットワーク主催 第 3 回四国生物多様性会議高松ーみんなで考えよう四国そして香川の生物多様性ー（高松市・高松市男女共同参画センター）
38. 今原幸光. 2013.12.11-13. 日本学術振興会の東南アジア研究教育拠点形成事業（代表機関東京大学大気海洋研究所）プログラム「八放サンゴ分類学の国際ワークショップ」（国立科学博物館筑波地区研究施設動物研究部実習室）
39. 田中幸記. 2014.1.6-13. ウミガメと環境・写真と漂流物展（高知県四万十市・四万十市中央公民館）
40. 田中幸記. 2014.1.28. 宿毛湾環境保全連絡協議会主催 松田川植林イベント（宿毛市松田川ダム）
41. 中地シュウ. 2014.2.8,9. 第 6 回えこらぼの文化祭「すなつぶのなかのたから探し」ブース展示（高知県高知市旭町・こうち男女共同参画センター「ソーレ」）
42. 中地シュウ. 2014.3.12. 橋上中学校校外学習 1～3 年（高知県幡多郡大月町西泊・黒潮生物研究所）
43. 今原幸光. 2014.4.15. 京都大学瀬戸臨海実験所第 38 回海洋生物学セミナー「相模湾産

八放サンゴ類の分類」(京都大学瀬戸臨海実験所)

44. 中地シュウ. 2014.2.22. 愛媛大学イビング部研修会 (高知県幡多郡大月町西泊 黒潮生物研究所)
45. 岩瀬文人. 2014.3.8. 徳島県主催 海の魅力・サンゴの不思議. 室戸阿南海岸国定公園指定 50 周年イベント「海とサンゴのつどい～豊かな自然の恵みを次世代へ～」(牟岐町・牟岐町海の総合文化センター)

5. 寄附等

平成 25 年度には、当財団のメイン・スポンサーであるステラケミファ株式会社及び同社
会長の深田純子様をはじめ、以下の 7 法人・団体、個人 25 名からご寄付をいただいた。
謹んで御礼を申し上げます。

- ・山口県下関市 園山貴之 様
- ・東京都 キューピー株式会社 QPeace 様
- ・高知市 有限会社 月灘屋 様
- ・愛媛県南宇和郡 少林法子 様
- ・愛媛県新居浜市 町田邦彦 様
- ・高知県宿毛市 パシフィックマリン 森田輝男 様
- ・香川県善通寺市 香川正樹 様
- ・高知県土佐清水市 佐野美月 様
- ・高知県宿毛市 鎌田勇人 様
- ・近畿大学 坂上吉一 様
- ・高知県土佐清水県漁協 土佐清水統括支所 サンゴ船主組合長 田中浩司 様
- ・名古屋市 日建建物管理サービス
- ・東京都 株式会社 東京久栄 様
- ・高知県安芸郡 天然資源活用委員会 様
- ・高知県土佐清水市 秋山祐貴 様
- ・高知市 遠近知代 様
- ・高知県幡多郡 森下誠 様
- ・高知市 宮崎勝年 様
- ・高知市 株式会社 日本珊瑚
- ・そのほか、氏名の公表を希望されない方 13 名

平成 25 年度寄付金総額 19,578,728 円

Ⅱ. 庶務の概要

1. 公益財団法人への移行

法人の名称を「財団法人黒潮生物研究財団」から「公益財団法人黒潮生物研究所」に、所管の官庁を高知県から内閣府に、決算期を3月末から4月末に変更して、平成25年5月1日付で移行登記が完了（理事、評議員は平成25年5月1日付で重任）。

2. 役員等に関する事項（平成25年度末現在）

（1）評議員（10名）

①辞任：内田紘臣（平成25年6月25日辞任）、長山健二（平成26年4月30日辞任）

②就任：富永基之（平成25年7月24日就任）、久保田 賢（平成25年7月24日就任）

（2）理事（7名）

①辞任：深田純子（平成25年6月25日付）、岩瀬文人（平成25年6月25日付）

②就任：宮下雅之（平成25年6月25日付）、橋本亜希（平成25年6月25日付）、
中地シュウ（平成25年6月25日付）

③代表理事の退任および就任

退任：深田純子（平成25年6月25日付）、岩瀬文人（平成25年6月25日付）

就任：橋本亜希（平成25年6月25日付）、中地シュウ（平成25年6月25日付）

（3）監事（2名）

3. 職員等に関する事項

事務職員1名、研究職員（研究所長を含む）5名、客員研究員1名

（退職者1名：平成26年3月31日付）

4. 会議に関する事項

（1）平成25年度理事会

①平成25年6月11日

・臨時書面理事会

開催場所：書面

出席等：理事現在数6名、出席6名

決議事項：保有株式の議決権行使の件

ステラケミファ株式会社の株主総会における議案について株主としての議決権を下記のとおり行使する。

第1号議案：定款の一部変更の件 賛成

第2号議案：取締役7名選任の件 賛成

第3号議案：監査役1名選任の件 賛成

(全員の同意が得られ承認)

②平成 25 年 6 月 21 日

・第 1 回通常理事会

開催場所：ステラケミファ株式会社本社 4 階応接室

出席等：理事現在数 6 名、出席 5 名、欠席 1 名

決議事項：議案 1. 平成 24 年度財団法人黒潮生物研究財団事業報告書案承認の件 (全会一致で承認)

議案 2. 平成 25 年度財団法人黒潮生物研究財団事業報告書案承認の件 (全会一致で承認)

議案 3. 平成 25 年度公益財団法人黒潮生物研究所事業計画修正案承認の件 (全会一致で承認)

議案 4. 平成 25 年度公益財団法人黒潮生物研究所収支予算修正案承認の件 (全会一致で承認)

議案 5. 新財団の各種規程案 承認の件 (満場一致で承認)

議案 6. 評議員選定委員会を組織するための手続き 承認の件

・運営細則案の承認 (全会一致で承認)

・評議員選定委員会の外部委員委嘱の承認 (満場一致で承認)

議案 7. 評議員候補者案 承認の件

新評議員候補者 2 名の承認 (全会一致で承認)

議案 8. 客員研究員受け入れ 承認の件

事前に第 5 条に規定されている協定書を作成し、履歴書、研究計画書、協定書の内容によって理事会で受け入れるかどうかを決定する (全会一致で承認)

議案 9. 理事会新体制案 承認の件

評議員会に提案する役員交代案 (全会一致で承認)

報告事項：報告事項 1. 公益移行完了の報告

③平成 25 年 7 月 24 日

・臨時理事会

開催場所：書面

出席等：理事現在数 7 名、出席 7 名、欠席 0 名 (出席監事 2 名)

決議事項：代表理事の選任について

平成 25 年 6 月 25 日付で理事を辞任した代表理事 2 名の後任として、代表理事・理事長を橋本 亜希、代表理事・専務理事を中地 シュウとすることが提案 (全員の同意が得られ、承認)

報告事項：なし

④平成 26 年 4 月 8 日

・第2回通常理事会

開催場所：ステラケミファ株式会社 本社4階応接室

出席等：理事現在数7名、出席6名、欠席1名、出席監事1名

決議事項：第1号議案 平成26年度事業計画案 承認の件（全会一致で承認）

第2号議案 平成26年度収支予算案 承認の件（全会一致で承認）

第3号議案 その他（決議事項なし）

報告事項：財団の経営状況について、理事会・評議員会の現在の体制、職員の退職、人事異動等の予定について

(2) 平成25年度評議員会

①平成25年6月25日

・第1回通常評議員会

開催場所：黒潮生物研究所 2階会議室

出席等：評議員現在数10名、出席6名、欠席4名

決議事項：

議案1. 平成24年度財団法人黒潮生物研究財団 決算報告書案 承認の件（全会一致で承認）

議案2. 平成25年度財団法人黒潮生物研究財団 決算報告書案 承認の件（全会一致で承認）

議案3. 平成25年度理事の報酬等の額変更案 承認の件（全会一致で承認）

議案4. 評議員選定委員選任の件

評議員会で評議員から2名の委員を選出（全会一致で承認）

議案5. 理事の選任の件

理事候補者の選任の可否について以下の通り議決を得た。

橋本亜希について本評議員会終結の時をもって理事に選任する。

中地シュウについて本評議員会終結の時をもって理事に選任する。

宮下雅之について本評議員会終結の時をもって理事に選任する。

報告事項：報告事項1. 公益移行完了の報告

報告事項2. 平成24年度財団法人黒潮生物研究財団事業報告

報告事項3. 平成25年度財団法人黒潮生物研究財団事業報告

報告事項4. 平成25年度公益財団法人黒潮生物研究所事業計画修正の報告

報告事項5. 平成25年度公益財団法人黒潮生物研究所収支予算修正の報告

②平成26年4月18日

・第2回通常評議員会

開催場所：黒潮生物研究所 2階会議室

出席等：評議員現在数11名、出席8名、欠席3名

報告事項：①理事会、評議員会の体制および職員の配置について
②財団の経営状況について

決議事項：

第1号議案 平成26年度事業計画案 承認の件（全会一致で承認）

第2号議案 平成26年度収支予算案 承認の件（全会一致で承認）

第3号議案 その他：研究助成選考についての説明（決議事項なし）

(3) 評議員選定委員会

①平成25年10月31日

・第一回評議員選定委員会

開催場所：黒潮生物研究所 2F 会議室

出席等：評議員選定委員現在数5名、出席5名、欠席0名

決議事項：新評議員2名の選任について（全会一致で承認）

5. その他の庶務事項

(1) 登記等

理事、評議員の異動に合わせて以下の登記手続きを行った。

①平成25年7月29日：理事3名辞任に伴う登記（平成25年6月25日辞任）

②平成25年7月29日：代表理事2名の退任に伴う登記（平成25年6月25日退任）

③平成25年7月29日：代表理事2名就任に伴う登記（平成25年7月24日就任）

④平成25年7月29日：評議員1名辞任に伴う登記（平成25年6月25日辞任）

⑤平成25年12月4日：評議員2名就任に伴う登記（平成25年12月4日就任）

また、上記の変更に関する内閣府等に対する変更届を必要に応じて行った。

(2) 諸規則の一部改正等

平成25年度に行った諸規則の改正（変更）は以下の通り。

●平成24年度の理事会で改正案の承認を得て、新財団移行（平成25年5月1日）
に合わせて施行したもの

・寄附金等取扱規程：一部改正

・役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規定：一部改正

●平成25年度第1回通常理事会（平成25年6月21日）での改正案の承認を受けて
平成25年7月1日から施行したもの

- ・就業規則：財団の名称、試用期間、特別休暇の日数、傷病による欠勤・休職に関する規定を補正
- ・給与規定：財団の名称、賞与の支払に関する事項、決算月の変更に伴う年俸更改時期の変更
- ・退職金規程：財団の名称、掛金調整時期の変更
- ・慶弔規定：財団の名称のみ
- ・旅費規程：従来の定額計算を主とする規定から、実費精算に見直し
- ・海外出張旅費基準：財団の名称、支度金の廃止
- ・育児介護休職規定：財団の名称のみ
- ・パート就業規則：就業規則との不整合を調整
- ・職能区分：財団の名称のみ